

Next is us

日体魂を受け継ぐ者

飛躍の年に、
スポーツの感動、平和と命の尊さを
世界の未来に向けて発信していく

特集 2020年 新たな目標に向かって

- 学長メッセージ・役職者プロフィール — 1
- 入試改革に見る日体大未来図 — 3
- Next is us 日体魂の聖火リレー
阿部 詩選手(柔道) — 9
- 研究活動の基本方針
Vol.3 スポーツ危機管理研究所 — 13
- 令和2年度役職者一覧・事務組織／入学試験結果 — 17
- 公式マスコットキャラクター「レオ丸」・公式応援ソング
SPYAIR「PRIDE OF LIONS」 — 19

学長 具志堅 幸司

新人生のみなさん、ご入学おめでとうございます。心から歓迎致します。

日体大はその使命のひとつに、「体育・身体活動・スポーツを通じて、健康で豊かな社会・人づくりの実現」を目指し、オリンピック・パラリンピックムーブメントの精神の実践・普及を推進するとともに、スポーツのもつ様々な「力」を活用して、国際平和の実現に寄与することを掲げています。現在、5学部9学科、3研究科6専攻からなる「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、体育スポーツ学はもとより、教育学、保健医療学の分野においても大きく教育と研究の裾野を拡げ、TOKYO 2020の成功に向け、ここまで、様々な取り組みを展開してきました。その開催に向け、しばらく時間を要することになりますが、改めて「オリンピック、パラリンピックとはなにか」をここで問いかけてみてください。そのうえで、人種や宗教の壁を乗り越え、地球上のあらゆる人びとがひとつになれるこの貴重な機会を、みなさんも積極的に経験し、本学のミッションを体現してもらいたいと強く願います。

に向かっ



体育学部 学部長

みずの ますひこ
水野 増彦



副学長 (教学・学生生活担当)

かさい りつこ
笠井里津子



副学長 (企画・管理・運営担当)

まつい こうじ
松井 幸嗣

●Profile 具志堅 幸司(ぐしけん こうじ)

①日本体育大学体育学部体育学科(S54.3)／②体育学士／③公益財団法人日本体操協会副会長、神奈川県参与、公益財団法人日本スポーツ協会理事、天皇杯受賞(5回)、総理大臣賞受賞(5回)、文部大臣賞受賞(S58)、紫綬褒章受賞(H17)、文部科学省スポーツ功労者顕彰受賞(4回)、ロサンゼルスオリンピック体操金・銀・銅メダリスト(S59)／④体操一筋。メキシコ・オリンピックがきっかけで体操を始めて、常にオリンピックを意識していました。⑤茶道。その所作に集中していると何もかも忘れて“無”になることができます。第12代日本体育大学学長就任(H29.4)

●Profile

①日本体育大学体育学部体育学科(S58.3)／②体育学士／③日本コーチング学会、日本体育学会、日本陸上競技連盟強化委員(障害部長)、関東学生陸上競技連盟評議員、文部科学大臣賞受賞(H13/H15)、関東学生陸上競技連盟指導者功労賞(S63、H13、H15)、日本学生陸上競技連合功労賞(S63)／④在学中から今もなお陸上競技部に所属。競技中心の生活を送り、卒業後2年目の助手時代に日本選手権で優勝し競技人生において最高の時を迎えました。33年の時を経て、未だに集う学友が存在することが私の財産です。⑤植物や花を育てながら成長を見守るのが楽しみです。

●Profile

①日本体育大学体育学部体育学科(S56.3)／弘前大学大学院医学研究科博士課程(H26.3)／②博士(医学)／③日本体育学会、日本保育学会、舞踊学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本体力医学会、東京都女子体育連盟副会長、全国ダンス・表現運動授業研究会委員／④負けず嫌いで運動量が少ない日は駒沢公園を走り、真面目に自主練習を課しダンス部の仲間と一日中活動していました。夜通して作品創作し朝日を何度も見ました。私の人生に必要な大切な学びはダンス場にあり、生涯のきわめて深い人間関係を築くことができました。⑤犬が大好き。50年を超えてスヌーピーグッズを収集しお宝自慢ができます。

●Profile

①日本体育大学体育学部体育学科(S55.3)／②体育学士／③日本体育学会、日本ハンドボール学会、日本ハンドボール協会 理事、全日本学生ハンドボール連盟 理事長、日本ハンドボール協会 表彰／④まず浮かんでくるのは部活動のことです。私はハンドボール部に籍を置き、活動していました。日体大の学生会クラブの中でも1、2位を争うほど練習面・生活面で厳しいクラブでしたが、2～4年生まで全日本インカレで3連覇しました。4年間のクラブ生活で苦楽を共にした先輩・後輩、そして同級生はかけがえのない宝です。⑤大型バイク(ハーレーダビッドソン FLHR103)でのツーリング。

これより、それぞれの専門性を究め、必要な知識と技術とを体得していくことになるわけですが、なにより、「なぜ、ここ(日体大)にいるのか?」、その初心を忘れないことが肝要です。時折、立ち止まり、振り返り、その胸中にある「夢」「希望」「目標」を改めて確認しながら、本学での生活に臨んでもらいたいと思います。

その道程は、決して平坦なばかりではありません。辛い思いや悔しい涙を流す場面に幾度となく遭遇することでしょう。その際、ピンチとどう向き合うのか、みなさんの真価が問われます。その姿勢次第で、新たに拓かれるステージの景色が大きく変わってくるからです。強固な壁が眼前に立ちはだかつて、逃げることなく、果敢にそれを乗り越える「勇気」を持つてください。

「人との出会いが人生を根本から変えることがある」と、相田みつを(詩人・書家)は詠みます。日体大で、「良き友」「良き師」に出会い、その関係を大切に育んでください。困ったときには、強がらず、まわりを見渡し、すぐ傍にいる同級生や先輩、我々教職員に素直に甘えてください。

「わかつてもらえない」と決めつけたり、諦めるのではなく、その気持ちを相手に理解してもらう努力が必要です。かつこいい言葉ではなく、拙くても自分の言葉で丁寧に、一生懸命に話してみると、必ずその想いは伝わります。また、自分とは異なる意見に耳を傾けてみると、それまで気づかなかった新しいものの見方や考え方、ヒントとなる解決の糸口、一筋の光がみえてきます。

みなさんの人生を彩る新たなときが、ここから始まります。今後の活躍を大いに期待します。

2020年 新たな目標



保健医療学部 学部長

ひらぬま けんじ
平沼 憲治

●Profile

①産業医科大学医学部医学科(S60.3)／②博士(医学)／③日本整形外科学会、日本体力医学会、日本臨床スポーツ医学会評議員、日本整形外科スポーツ医学評議員、「第9回秋宮記念スポーツ医学賞—奨励賞—」受賞／④北九州の産業医科大学で、スポーツドクターを目指して6年間を過ごしました。入学後早々、肺炎で授業を欠席。環境が変わり、自分では気づかないストレスがあり、抵抗力が低下していたのだと思います。新入生、特に地方出身者は、体調管理に気をつけてください。⑤サッカー、アメフトのゲーム観戦、自分で体を動かすゴルフ、異文化に触れる海外旅行



児童スポーツ教育学部 学部長

こんどう ともやす
近藤 智靖

●Profile

①宮城教育大学教育学部(H6)／愛知教育大学大学院教育学研究科(H8)／筑波大学大学院人間総合科学研究科(H18)／②博士(体育科学)／③日本スポーツ教育学会理事並びに学術誌「スポーツ教育学研究」編集委員長、日本体育科教育学会常任理事、(公財)日本学校体育研究連合会理事、体育授業研究会会員、日本体育学会会員、日本教科教育学会会員／④北海道・利尻島の小学校教員を経て、筑波大学大学院のとき約2年間、ドイツに留学、ハンブルク大学にてドイツのスポーツ教育学を研究しました。⑤子どもと過ごすとき、最高にリラックスできる時間です。



スポーツマネジメント学部 学部長

いし い たかのり
石井 隆憲

●Profile

①日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻(S60.3)／②博士(社会学)、体育学修士／③日本体育学会スポーツ人類学専門領域代表、NPO法人日本チンロン連盟代表理事／④剣道部に所属し、寮と合宿所生活とを経験しました。剣道は弱かったのですが、剣道部監督の志澤邦夫先生が気にかけてくださったことが、その後の励みになりました。⑤15年ほど前にミャンマー調査で研究のために始めたチンロンが趣味の一つになりました。今は授業で教えるとともに、年に1度ミャンマーでの大会に出場することが楽しみとなっています。



スポーツ文化学部 学部長

や ぎ さわ まこと
八木沢 誠

●Profile

①日本体育大学体育学部武道学科(S59.3)／日本体育大学大学院体育学研究科(H2.3)／②体育学修士／③日本武道学会、スポーツ史学会、全日本学校剣道連盟常任理事、関東学生剣道連盟卒業生常任幹事、世田谷区剣道連盟顧問／④入学と同時に剣道部に入学し、4年次には主務を務めました。当時は全国津々浦々から220名を超える部員が在籍しており、多くの先輩や後輩たちと剣を交え、大いに語り合いました。今の自分があるのも4年間を乗り切った自信と多くの剣友の支えと感謝しています。⑤掃除が息抜き。気持ちのコントロールになっています。

個々の「強み」を評価し、 多様な人材を迎え入れる入試を

日体大は近年、捉える学問の射程を大きく広げ、体育学部を中心に据えながらも、児童スポーツ教育学部（2013年）、保健医療学部（2014年）、スポーツ文化学部（2017年）、スポーツマネジメント学部（2018年）と相次いで新たな学部を開設してきた。現在では、5学部9学科を擁する「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、さらなる進化を続けている。これにあわせ、入学試験も、体育スポーツ学、教育学、保健医療学の各分野に興味・関心のある受験生のさまざまなニーズに応えられるよう、その選抜方法の改善に努めてきた。ここでは、これまでの取組について振り返り、日体大が求める学生像について探ってみよう。



競技力に秀でた人材 （トップアスリート）の さらなる獲得に向けて

日体大には、さまざまなスポーツで優れたアスリート（学生）や世界レベルの指導者・コーチ（教員）が数多く在籍し、これは他大学の追随を許さない大きな特色であり、その姿が今後どのように変わろうとも、大きな柱であることは言うまでもない。

「選手強化」「競技力向上」策の更なる推進のため、これまで入学試験では、顕著な競技成績を有し、さらなる向上に取り組む真摯な姿勢と国際的な活躍を期待するトップアスリートAO入試と、進学後もそれぞれの競技に精励し、学生アスリートの模範となることを求めるスポーツ推薦入試を通じて、全国から高校生アスリートを迎え入れてきた。

トップアスリートAO入試は、体育学部、スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部で、スポーツ推薦入試は、これら3学部に加えて、児童スポーツ教育学部、保健医療学部においても実施され、全学的に競技力に秀でた人材を

受け入れる体制が整備されている。ここでは主に、高校時代の競技実績を大きな拠に、小論文・面接試験等を通じて選抜（評価）している。

これらの入試を経て、入学した学生の中から、オリンピック、パラリンピック等の国際大会で表彰に立つアスリートが輩出され、日本のスポーツ界の競技力向上に貢献している。

募集人員、受験機会の拡大を図るだけでなく、同時に、最適な練習環境の整備や学修の在り方についても、その支援策が種々講じられている。

※2021年度入学者選抜では、総合型選抜（トップアスリート「競技実績」型、運動適性型）、学校推薦型選抜（スポーツ推薦）がこれに該当

意欲や情熱、 明確なビジョンを有する 人材の発掘を目指して

「日体大アスリートの養成」というイメージだけに囚われてはならない。なぜなら、日体大は、トップアスリートとして国際的に活躍する

ことだけを、唯一の価値だとは考えていないからだ。「コーチやトレーナー」として、選手とともに世界最高峰の舞台で闘いたい」「スポーツを通じて、すべての人びとに健康的な毎日を提供したい」「スポーツによる、国際交流・国際理解を深めたい」「メガスポーツイベントを企画してみたい」「子どもたちに体育・身体活動・スポーツを通じて、その楽しさや生命の尊さを伝えたい」「多くの人びとを怪我や事故などから救いたい」など、さまざまな想いがキャンパスを交わしている。

こうした意欲や情熱、将来への明確なビジョンを持つ高校生を積極的に迎え入れるべく、全学部において、学科AO入試、推薦入試（指定校推薦、一般推薦）を行ってきた。さらには、帰国生・外国人留学生の受け入れや、社会人アスリートの学び直し（セカンドキャリア）を支援するリカレント入試、既に国際的な実績を有する高校生アスリートの早期入学を促す、飛び入学入試など、門戸を拡げてきた。また、その夢を叶えるための取組「キャリアサポート、ボランティア・海外留学の斡旋等」も充実しており、通常の授業の枠を超えて、学びのチャンスは拡がっている。ここでは、課題シートや総合考查、小論文と面接試験等を通じて、それぞれの本気度が確認される。

※2021年度入学者選抜では、総合型選抜（課題探究型）、学校推薦型選抜（一般推薦・指定校推薦）、特別選抜がこれに該当

高い学力を備え、 知的好奇心に溢れた 人材の挑戦を期待して

日体大を目指す、すべての受験生が必ずしも、

優れた競技成績や運動能力を有しているわけではない。その実績に秀でていなくとも、スポーツが好きで、体育や身体活動、スポーツにかかわる学問に触れたいという進路希望者が数多くいる。一般入試では、高い学力を備え、それぞれの専門分野に対する知的好奇心に溢れた、そんな受験生にチャンスを広げようと、すべての学部で、「センター試験利用入試」を実施、体育学部、スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部では、あわせて筆記試験のみの選抜区分を設けた。これにより、実技試験が課されることを理由に、一般入試での受験を躊躇していたと思われる体育スポーツ系統への進学者層が、改めて挑戦するようになった。

大好きな高校までの学習（各教科）と、体育スポーツ学、教育学、保健医療学の各分野とを繋ぎ、専門性を究めると大学院への進学も視野に入り、旺盛な探究心は、さらなるステージに拓かれる。ここでは、国語、英語を中心に、それぞれ得意とする科目で臨むことになる。

※2021年度入学者選抜では、一般選抜（前期・後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）がこれに該当

このように、さまざまな尺度を用いて、個々の「強み」を適正に評価する入試制度が構築されている。受験生には、自身の「強み」を改めて確認し、どの入学試験でチャレンジするのか、早めに決定することが望まれる。また、受験機会も、それぞれ複数回にわたって設定されており、そのチャンスをぜひ、活かしてもらいたい。

【近年の入試動向】

[2012年度入学者選抜]	①筆記試験（国語、英語）のみによる一般入試（B方式：3月実施）を新たに導入 ②全国より優れた高校生を誘うべく、地域ブロックAO入試（関東一都六県を除く、5ブロック50名）を新たに導入 ※一般入試、学科AO入試のサテライト会場（全国6都市）実施に伴い廃止 ③プロスポーツ選手等のセカンドキャリア支援を目的に、リカレント入試を新たに導入
[2013年度入学者選抜]	①文武両道を体現する高校生を誘うべく、体育学部にて推薦入試（一般推薦）を新たに導入 ②外国人留学生を積極的に受け入れるべく、外国人留学生入試を新たに導入
[2015年度入学者選抜]	①トップアスリートAO入試にて、受験機会を拡大（計2回） ②一般入試（前期）にて、受験機会を拡大（計2回） ③国際レベルの高校生アスリートの早期入学を促すべく、飛び入学入試を新たに導入
[2017年度入学者選抜]	①国際性豊かな高校生を誘うべく、国際バカロレア（IB）資格入試、英語外部資格入試を新たに導入
[2018年度入学者選抜]	①トップアスリートAO入試にて、さらに受験機会を拡大（計3回） ②一般入試（前期・後期）にて、受験機会（併願学科数）を拡大 ③センター試験利用入試（前期・後期）を体育学部、児童スポーツ教育学部にて新たに導入
[2019年度入学者選抜]	①センター試験利用入試（前期・後期）を全学部にて導入

「大学選び」に際し、進学先の情報（強み）と「弱み」を丹念に集め、精確な分析を試みることはたいへん重要です。本学は、大学案内をはじめ、入試ガイドやホームページなどを通じて、さまざまなかたちで、最新情報を随時、提供しています。

「大学の基本理念」（建学の精神、ミッション、ビジョン）にはじまり、学部・学科の基本方針（3ポリシー）や教育課程（カリキュラム）、在学生の毎日（授業、課外活動、アルバイト）と進路・就職（キャリアサポート体制）、さらには入学方法（選抜区分、募集人員）、学費（奨学金）など、日体大の全体像を予め確認しておくことは言うまでもありません。

「日体大」を

体感しよう

学長
具志堅 幸司

願わくば、これらをもとに、実際にキャンパスを訪ねてもらい、自らの五感で本学の雰囲気を感じてもらいたいと思います。キャンパスを歩きながら、建物や在学生、あるいは我々教職員から自分と同じような感覚（フィードバック）が伝わってくることも大切です。

しかし遠方で、なかなか足を運べない場合には、全国各地で開催される進学説明会に教職員を派遣していますので、ぜひこちらに参加してみてください。また、高等学校から依頼があれば、出張授業や個別相談にも向いています。みなさんの学校の先生が本学卒業生であったり、日体大生が教育実習に参加している場合もあり、身近に、「日体大」を体感するチャンスが拓かれています。進路選択にあたり、受験勉強（対策）はもとより、こうした取組をみなさんに期待します。

時代に応えた 入試改革の動き

◆2021年度入学者選抜について

2021年度入学者選抜では、これまで以上に多面的・総合的に能力を評価することが求められている。具体的には、「学力の3要素」(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協働性)を適正に評価する選抜方法の構築であり、「大学入学共通テスト」の導入は、その最たる例である。

一方、各大学が実施する個別選抜でも、より多面的な選抜方法を行うことが求められている。例えば、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「旧AO・推薦入試等」においても、小論文、プレゼンテーションや大学入学共通テストなどを通じて、必要な学力を問うことが必須化されている。

日体大の2021年度入学者選抜も、こうした方針を踏まえ、「総合型選抜」(旧AO入試)、「学校推薦型選抜」(旧推薦入試)、「一般選抜」(旧一般入試)、「大学入学共通テスト利用選抜」(旧センター試験利用入試)、「特別選抜」(旧帰国生入試、リカレント入試他)をそれぞれ、以下の通り、実施することとしている。

◆体育学部体育学科にて「総合型選抜」(運動適性型)を新たに導入

体育学科では、これまで学科AO入試として実施していた、書類審査(調査書、課題シート等)、論述試験(総合考査)、面接試験による選抜を、「総合型選抜」(課題探究型)とし、新たに書類審査(調査書、課題シート等)、実技試験(バレー系、敏捷系、持久力系)、面接試験に基づき、入学者を選抜する、「総合型選抜」(運動適性型)を導入する。

「総合型選抜」(トップアスリート「競技実績」型)で求められるような顕著な成績は残せていないが、卓越した運動能力を有するアスリートを発掘し、場合によっては、その適性に応じて新たな競技種目への転換を促そうという試みである。

日体大ではこれまで、大学入学後に新たなスポーツにチャレンジし、世界の檯舞台で活躍するまでに成長した学生アスリートが少なくない。近年では、パラリンピック銅メダリスト(陸上競技)を輩出している。

新たに導入する、「総合型選抜」(運動適性型)は、入学者選抜の段階から、そのサポートを展開(実技試験の結果をフィードバックし、適性を理解させる)しようとするもので、ぜひその運動能力に大きな自信のある受験生は、挑戦してもらいたい。

令和3年度(令和2年度実施) 入学試験日程について

【実施学部】 体…体育学部、文…スポーツ文化学部、マ…スポーツマネジメント学部、児…児童スポーツ教育学部、保…保健医療学部

入試区分			実施学部	実施 キャンパス	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合型選抜	トップアスリート (競技実績)型	10月	体・文・マ	健志台	10月17日(土)					
		12月	体(体)	健志台			12月20日(日)			
		3月	体(体)・文・マ	健志台						3月3日(水)
	課題探究型		児・保	健志台	10月17日(土)					
			体・文・マ	健志台	10月18日(日)					
運動適性型			体(体)	世田谷	10月25日(日)					
学校推薦型選抜	11月		体・文・マ・児・保	健志台		11月29日(日)				
	12月		体・文・マ	健志台			12月20日(日)			
一般選抜	前期	全学統一日程	体・文(国)・マ・児・保	健志台 サテライト					2月1日(月)	
		学部個別A日程	体・文・マ・児・保	健志台 サテライト					2月2日(火)	
		学部個別B日程	体・マ	健志台 サテライト					2月3日(水)※1	
	後期	A日程	体・文・マ・児・保	健志台						3月3日(水)
		B日程	体	健志台						3月4日(木)
大学入学共通テスト 利用選抜		前期	体・文・マ・児・保	世田谷			大学入学共通テスト 試験要受験 1月16日(土)、17日(日)			
		後期	体・マ・児(児)	世田谷						
特別選抜	帰国生選抜		体・文・マ・児・保	健志台		11月29日(日)				
	国際バカロレア(IB)資格選抜		体・児・保	健志台		11月29日(日)				
	英語外部資格選抜		体・文・マ・児・保	健志台			12月20日(日)			
	外国人留学生選抜		体・文・マ	健志台						3月3日(水)
	リカレント選抜		体・文・マ・児・保	健志台						3月3日(水)
	飛び入学選抜		体	健志台						3月3日(水)
	編入学試験		体・児・保	健志台						3月3日(水)

二段階選抜を実施する入試区分については、二次試験実施日。

※1 スポーツマネジメント学部【筆記+実技型】受験者は、筆記試験終了後に実技試験を実施する。

How about 日体大

～高校生の今～

入りたい大学より

入れる大学を選ぶ？

広く大学入試を見てみると、近年大きな変化が現れている。受験生がいわゆる難関大学と言われる大学を避ける傾向が顕著になり、その影響で中堅大学の入試が難化しているという。背景には、大学入学共通テストの導入など目まぐるしく変わる大学入試制度、私立大学の入学定員管理の厳格化といった社会的要因がある。こうした受験生の**安全志向**を憂慮する声は多い。さらにAO入試、推薦入試の広がりもその傾向に拍車をかけている(2021年から始まる大学入学共通テストの導入等の一連の大学入試改革の中で、AO入試は「総合型選抜」、推薦入試は「学校推薦型選抜」に改定されることになっている)。

本学のオープンキャンパスにおいても、「**どうやったら合格できるか?**」など現実的な質問が多くなっている。もちろん意欲の高い高校生も多いが、一方で、極論すれば、カリキュラムや授業内容にはあまり関心がなく、志望する学問領域を変更しても入りやすい大学を選ぶ者も見られるという。「入学後、本学でどのような資格がとれるか」といった前向きな質問より、「AO入試でどんなことが評価されたのか?」「どんな勉強をしたらいいのか?」「合格者はどんな資料を参考にしたのか?」などの受験の対策に関心を示し、このような生の声を聞くことができるAO入試体験談は非常に好評だ。

日体大に対する“誤解”

高校を訪問していると、「**体育大学はスポーツ万能で、推薦された者が入る大学**」という印象を持っている進路指導の先生方が今なお多いと懸念する。あるいは、「**体育大学の魅力は教員免許が取れること**」といった限定的な評価を持っていたり、「**そもそも日体大に入るのは難しい**」と諦めてしまっていたり、これらの誤解が根強く残っている。その結果、高校生の体育大学への進学相談先は、体育の先生や運動部の顧問に限られてしまい、従来型の募集スタイルが変わっていないのが実情だ。

同様の誤解は保護者の方々の間にもあるのではないか。情報不足から、体育大学はハードルが高い、教員になっても仕事が大変などの不安から、受験生の夢を摘み取ってしまっただけでは非常に残念だ。高校内や全国各地の会場で実施される進路ガイダンスは、高校生や先生方、保護者の方と直接会って話のできる有効な機会であり、こうした場を通して体育大学の真の魅力を伝えていく必要がある。

日体大のリアルを
伝えていく

進路選択は、まず学びたい学問や将来の目標があって、それを実現できる大学を選ぶのが本質である。こうした意欲の高い学生をぜひとも多く迎えたい。そのために、高校生や高校現場の実情から見えてくることを挙げてみたい。

一つは、**高校生は日体大のリアルを求めていること**である。オープンキャンパスでは運営をサポートする学生の評価が高い。学生たちが懇切丁寧に接することはもちろんだが、パンフレットやホームページだけではわからない日体大の学生生活のありのままの日常に触れることができるからだろう。高校生にとってまさに憧れの先輩である。トップアスリートではなくても、部活動に打ち込んでいる学生もいる。勉強や部活動に忙しい中でもアルバイトをしている学生もいる。もちろん、子ども、医療、文化、ビジネスなどさまざまな専攻の学生がいる。自分も日体大の一員として夢に向かって挑戦する場所があることを実感できるはずだ。

その点では、**日体大にかかわる人がすべてアピールする機会を持っている**と言えるだろう。日体大のリアルに触れる機会という点では、オープンキャンパス等での模擬授業も非常に評価が高い。さらに、保健体育や部活動の先生の勧め以外にも、同じ高校の先輩の話を聞いたり、日体大の学生が参画する地域のイベント等と一緒に活動したことがあったり、日体フェスティバルや体育研究発表演奏会に足を運んだことがあったり、そのような機会から日体大に関心を持ったという声も聞く。つまり、私たちが競技や学業、さまざまな活動に打ち込む日常のリアルな姿こそが最も有効なアピールになると言えるだろう。

いつそう選ばれる 日体大・アドミッション活動を 展開するため



アドミッションセンター長
体育学部健康学科教授

小林 正利

2021年度入学選抜（2020年度実施）から、旧来のAO入試が「総合型選抜」に、推薦入試は「学校推薦型選抜」に、一般入試は「一般選抜」に名称が変更になります。特に「総合型選抜」は実施時期が9月から10月に変わりますのでご注意ください。また、体育学部体育学科では新たな選抜区分として、総合型選抜において新たに運動適性型の試験を導入し、一般選抜において実技試験を無くしました。

本学の入学選抜では「表1」に示すように将来スポーツ界や人々の健康を支えることに関連する仕事に就くことを夢に持ち、多方面で活躍出来る可能性を持つ志願者を獲得することをねらいとし、多様な選抜区分を用意しています。

アドミッションセンターは入学試験にかかわるすべての業務を総括している。教育内容や入試情報などを正確に伝えるときともに、日体大の魅力丁寧なわかりやすく伝えることが使命だ。その取り組みや受験生・関係者に向けた思いを、小林正利アドミッションセンター長に聞いた。

― 昨今、入試制度改革に伴い日体大での変更点、力を入れている取り組みを紹介ください。

[表1]

入学獲得のねらい	選抜区分
高い競技力、運動能力を有し、世界のトップ、日本のトップとして活躍するアスリートになる可能性をもち、将来競技スポーツ界でリーダー・指導者となるべき優れた人材を獲得する。	総合型選抜トップアスリート（競技実績）型 総合型選抜（運動適性型） 学校推薦型選抜（スポーツ推薦）
学部学科のディプロマ・カリキュラム・アドミッションの3ポリシーを十分に理解し、本学各学部・学科への入学・学修熱意をアピールでき、各学科の学修過程において探究心をもち、リーダー的存在となりうる優れた人材を獲得する。	総合型選抜（課題探究型）
スポーツ・身体に纏わる活動・健康指導に強い関心を持ち、学校長から推薦される学力および人物に優れた人材を獲得する。	学校推薦型選抜（指定校推薦、一般推薦）
十分な基礎学力を有し、将来「する」スポーツだけでなく、スポーツを「見る」、「支える」という多方面での指導者、リーダーとなるべき優れた人材を獲得する。	一般選抜・大学入学共通テスト試験利用選抜
グローバルな人材や様々なキャリアを有した優れた人材を獲得する。	特別選抜（帰国生選抜、IB資格選抜、外国人留学生選抜、英語外部資格選抜、リカレント選抜、飛び入学選抜）



受験生の皆さんにはいずれの選抜区分を受験するにあっても、「各学部・学科で何が学べるか?」「その学びをどのように自分の強み(武器)にしていけるのか?」をよく理解・熟考し、たうえを受験していただきたいと考えています。

—受験生の傾向について、感じていることはありますか?—

文科省からの指導による都市部大学における入学定員の厳格化および2020年度からの入試改革にともない受験生心理として「早めに進路を決定したい」という思いからか一般選抜に比して総合型選抜(旧AO入試)への志願者数が増加しています。近年の受験傾向を見ると体育・スポーツ系大学では顕著にこの傾向を示しています。又、「スポーツが得意」という人ばかりでなく「スポーツが好き」という人が増えているように感じます。

—受験生や高校教員に日体大が支持されている理由は何でしょう?—



「日体大生の資質として『行動力(明るい笑顔、活発)』、『忍耐力(泣き言を言わない)』、協調性(コーディネート力、リーダーシップ)」を持ち合わせており、このことで日体大生は社会から期待されているのではないだろうか。また、このような資質をもった本学OB、OG(特に中学・高校の先生方)の背中をみて、あこがれ、将来こんな人になりたいと考え本学を選択してくれている受験生が多いようです。

—アドミッションセンターの展開を通して、課題や今後注力していかなければいけないと感じていることはありますか?—

総合型選抜(旧AO入試)、学校推薦型選抜(旧推薦入試)の志願者は増加しているものの一般選抜の受験生が減少していることが課題です。特に地方からの一般選抜受験生が減少している傾向があります。これは全国に体育・スポーツ系大学が増え、わざわざ上京して遠方の大学に行かなくても良い時代になったからなのかもしれません。しかしながら本学の強みの1つは全国から学生が集まり、卒業後に地元戻っていくことです。この日体大OB・OGのネットワークがあることで、全国どこへ行っても日体大の卒業生がいて、社会に出てから大変助けられます。地方出身の学生が減少することは、このネットワークが弱まること予想されますので地方出身者の獲得を重要な課題にしていきたいと考えます。

—受験生に期待することはなんですか?—

日体大には、将来の夢を共に目指す仲間がいて、夢を叶えることをサポートできる教職員がいます。身体に関する事を何でも「聞くことができる」「実践できる」環境が揃っていることが強みであると思います。



一方で、自ら抱いた「夢」を現実化するためには、そのことを「目的」にし、本人の努力とチャンスをつかみに行く積極性、実践力、行動力が不可欠です。

受験生の皆さんは、新しい時代を切り開き、これからの社会を担い活躍していく存在です。自分自身の夢を実現するにはどのような道のり、ハードルを越えなければいけないのかをよく調べて準備しておいて欲しいです。そして日体大入学後は「目的」に向かってともに頑張ります。

—学外の同窓生、高校の先生方に対してメッセージをお願いいたします。

私達が日体大を受験した頃は、学部は体育学部1学部のみで入試区分は11月の推薦入試と2月の一般入試しかありませんでした。現在は5学部9学科体制になり、多様な人材を受け入れるために選抜日程が多くなり、沢山の選抜区分を用意しています。一方で狙いや内容がわかりにくくなっているかもしれません。気軽にアドミッションセンターまたは広報課にお声

かけただけだとは思いますが。また、地方出身の学生獲得のためには同窓生の皆さんに、高校生に向けて入試相談会への参加の呼びかけを行って頂く等、志願者の裾野拡大への協力をお願いできればと思いますのでよろしく願いたします。

—アドミッションセンターの活動における今後の抱負をお教えください。

大学教育の「入り口」として、将来社会で活躍できる人材を獲得し、本学から社会に送り出すために、各学部や学内の各センターおよび広報課との連携を強固にし、教学、研究(競技力向上を含む)の場としての日本体育大学の魅力と日体大生の人間的な魅力を社会にアピール出来るよう志願者の動向調査を進めていくとともに入学選抜の技術の研究開発を推進し、準備、実施に努めていきます。

小林 正利

(こばやし まさとし)

アドミッションセンター長。体育学部健康学科教授。日本体育大学大学院体育学研究所修士課程修了。修士(体育学)、博士(医学)。おもな研究内容は「健康教育学」など。受験生には「夢を実現できる大学を、家族とも話し、しっかり考えて決めてほしい。それが日体大であれば何よりも嬉しい」と話す。



A full-page portrait of a young woman, identified as Asaoka Shiori, in a white Judo gi. She is looking directly at the camera with a calm expression. Her hair is dark and pulled back. The gi has '日体' (Nittai) written in gold on the left chest and 'SU' on the right sleeve. The background is a plain, light-colored wall.

Next is us

日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

12

阿部 詩

柔道・52kg 級

中学で日本一の景色を見た。

高校で世界一の景色も見た。

次は五輪の舞台で最高の景色を見る。

前に出て一本を取りに行く。
積極的な姿勢で夢を掴み取る。



阿部 詩(あべ うた)／スポーツ文化学部2年。柔道部所属。兵庫県神戸市出身、夙川学院高校卒業。階級は52kg級。東京オリンピック日本代表に内定。兄は阿部一二三選手。2018年の世界選手権では兄妹で優勝した。その兄を尊敬していると話す。昨年の入学式では新入生を代表して誓いを述べた。おもな戦績は、全国中学校柔道大会優勝、全国高校選手権個人戦優勝・団体戦優勝、インターハイ個人戦優勝、チューリンゲンカデ国際優勝、グランプリ・フフホト優勝、グランドスラム東京・パリ・デュッセルドルフ優勝など。世界選手権を2連覇中。

―柔道をはじめたきっかけは兄の存在

幼い頃に兄が先に柔道を始めており、その練習を見に行くうちにいつしか「私もやりたい!」と思うようになった。そしてすぐに柔道を始めたが、はじめのうちはどうしても基礎的な練習ばかりだったので、あまり面白く感じることはありませんでした。柔道自体はそれほど好きになれず、その頃はまだ強くなりたいたとか、試合で勝ちたいとか、そういう気持ちになることは少なかったです。ただいろいろな人と一つの空間で一緒にいられることが楽しく、そういうことから少しずつ好きになっていきました。

転機となったのは、中学1年のときに兄が全国大会で優勝したこと。それを見て、「兄に出来ることなら私にも出来るのではないか?」という気持ちになったのです。それから練習に力を入れるようになり、試合でもしっかりと勝ちたいと思うようになりました。

兄がいてくれたからこそ、今の自分があります。だから存在はとても大きいですし、今でも仲がいいです。

―柔道のスタイルや得意技は?

自分の方から臆せず前に出て、積極的に一本を取りに行くというスタイルを、子どもの頃から心がけています。得意技は担ぎ技や投げ技です。試合の中では、相手に合わせて技を仕掛けていくこともあります。基本は自分の柔道である、果敢に前に出て攻めていくというスタイルを貫いて試合をしています。

―次第に高まる五輪への気持ち

小学6年生の全国大会のときのこと、45kg以上が重量級でしたが、勝てると思って出場したのに負けてしまい、とても悔しかったことを覚えています。自信满满で試合に出たのに、一回戦で負けてしまい、「私はまだまだ弱い、

やっぱり練習しないと勝てない」とあらためて思いしました。

その後、兄の全国優勝にも刺激され、中学3年生のときに初めて大きな大会で優勝することができました。決勝が終わった瞬間、これまでにない達成感、清々しさ、「辛いことを頑張ったからこそこういうことがあるんだ、日本一つてこういう景色なんだ」と思い描いていたものがはつきりとなりました。

本格的にオリンピックを意識し始めたのは、高校1年生の頃です。国際大会で優勝して、「私もオリンピックを目指せる、夢じゃない」と思いました。次のオリンピックが東京に決まったときから、「東京オリンピックに出て優勝するぞ」と言っていました。本格的な目標として自分の口から言えるようになったのは、高校1年生で優勝したときからです。

―日体大に進学した理由

進学については、将来を考えたときに、やはり大学で学んだほうが自分のやりたいことへの近道だと思ったこともあります。多くの大学がある中から日体大に決めたのは、先に兄が日体大に入学していたことが大きい。周囲でサポートをしてくださる人たちの存在を見て、選手として非常に心強いと感じたことから、自分も兄の後を追って日体大に進学することを決めました。

実際に入学して思ったことは、スポーツに関するサポートがどの大学よりも素晴らしいことです。本当に良い環境が揃っていて、いろいろな人がケアをしてくれます。特にトレーニングについては、トレーナーの方がいるので助かっています。実は高校まで、本格的なトレーニングはあまりしていなかったのですが、今ではトレーナーの方の指導を受けながら、一緒に進めることが出来ています。

—学生生活で印象に残っていること—

入学当初に経験した、集団行動やオリエンテーション、荏原体育などです。きついと感じたこともありましたが、日体大らしさを味わえてとても嬉しかったです。集団行動は1年生全員でやりますが、オリエンテーションの期間中に練習して、クラスごとに全員で発表するのがすごく楽しかったです。右を向いたり、列になって歩いたり、大きい声をみんなで出したり、みんなが一つになることができますので楽しんで頂きたいと思います。

また、授業ではスポーツの安全指導というのがあり、熱中症や体罰の問題などを学べたことが印象深いです。熱中症の講義では亡くなられた方のご両親が来てくださり、貴重な話をして頂きました。そういう話を詳しく聞いたことがなかったので、非常に記憶に残っています。

—普段の練習や息抜き法—

試合に向けて自然と気持ちが高まっていくタイプなので、何か特別な準備をすることはなく、普段から試合を意識した練習をしていくことを心がけています。とは言え練習ではうまくいかず、苦しい思いをすることもよくあります。でも試合に勝ったときの喜びだったり、達成感だったり、いつも支えてくださる方に感謝できる舞台というのが本当に試合しかないと思っていますので、そのために日々の練習を頑張ることができています。たまに息抜きするときは、その時々になんか欲しいものを買ったり、温泉に行ったりしています。温泉はやっぱり気持ちがいいので、1時間半くらいは入ってリフレッシュをしています。

—そしてついに掴んだ五輪の切符—

柔道を始めた頃から「将来はオリンピックに出たい」とは言っていました。それが現実になって、今は不思議な感覚です。代表選手の内定を受けたことで、自分の



中でオリンピックに対する覚悟がさらに固まりました。内定が出たのは2月27日でしたが、それほど緊張することもなく、「行けるかな」という平常心で決定を待つことができました。最終選考となった大会でも、緊張したのは試合の当日だけです。後は本当にこれまでしてきたこと、やるべきことにしっかり集中すれば大丈夫だと、自分を信じて力を発揮できました。

—東京五輪に向けて思うことは？—

これまで東京オリンピックで優勝することを目標にして、ずっと柔道をやってきました。世界選手権で優勝していることもあり、今では多くの選手に技も研究されています。しかし、どんな場面でも自分の技がしっかり決まるよう、どんなに対策を練られてもそれを跳ね返していけるよう、今以上の対応力を身に付けていくことが本番までのテーマです。厳しいプレッシャーにも負けることなく、自分の柔道のスタイルをオリンピックの舞台でも貫くために、これからもしっかり練習をしていきたいと思っています。

[Next is us 日体魂の聖火リレー]

◆入江聖奈選手からの質問に答えて

「どんな競技でも世界一にはなかなかないと思います。世界一になった気分や、世界一になった人から見える風景はどんな感じですか」

初めて世界一になったのは高校3年生のときでしたが、優勝した瞬間は心境も見える景色もあまり変わりませんでした。帰国してから、取材が増えるなど、周囲の反応を通して、世界一を実感しました。そして次の試合からは、追われる立場で試合に出ることになります。世界一になった方がプレッシャーが強くなりますが、その分、自信はつくと思います。今はかなり自信を持てるようになりました。

◆次号に登場するアスリートに向けて、阿部選手からエールをいただきました。

一緒にオリンピックをがんばりましょう！ そして、日体大生一人ひとりにとって記憶に刻まれる年にしましょう。

次号アスリートへ、リレー質問を展開していきます。ご期待ください。

代表選手の内定を受け、
五輪に対する覚悟が固まった。

阿部 詩

ツ・健康をリードする研究活動

(日本体育大学における研究活動の基本方針【活動方針】)

VOL.3 スポーツ危機管理研究所 スポーツのリスクを多面的に追求する



学校現場はもちろん、スポーツ人口の拡大に伴い、安全・運営・指導などの面でさまざまなリスクへの対応が求められるようになってきている。日本体育大学における研究活動の基本方針は、建学の精神に則り、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」に寄与することを目的に掲げているが、安全にスポーツを楽しむ体制・環境づくりはその基盤となることである。スポーツ危機管理研究所は、スポーツ活動全般にわたり、問題事象の予防・対応・改善の具体策を研究している。

恩師に憧れ、また子どもと接する仕事にやりがいを感じて教員やスポーツ指導者を目指す。その純粋な思いでスポーツや勉強に打ち込みながら、突然の事故や事件で命を落としてしまったり、重い障害を背負ったり、夢を絶たれてしまった人々がいる。私たちはこうした現実から目をそらすことなく、学校やスポーツの現場でこうした不幸が二度と起こることのないように努めていかなければならない。

これまでも本学・総合スポーツ科学研究センターでは、研究活動部門の一つとしてスポーツ危機管理に関する研修会や講習会等を開催し、多方面から好評を得てきた。そのような実績も踏まえて、2018年4月に誕生したのがスポーツ危機管理研究所である。

スポーツ危機管理研究所は、スポーツ活動全般をめぐる危機管理上の問題事象(事件、事故、傷害、体罰・ハラスメント、ドーピング等)を研究対象とし、その予防・対応・改善の具体策(Ⅱスポーツ危機管理の在り方)を探索することを目的としている。また、必要に応じて得られた研究知見に基づく啓発活動やマニュアルづくり等にも努める。

具体的な研究活動(研究内容)は次の通りである。

1. スポーツ危機管理研究の対象・領域と方法の整理
2. スポーツ危機管理研究のための文献、資料、判例等の収集
3. スポーツ危機管理の歴史、現状と課題の分析
4. 本学の部活動及びサークルにおけるトラブル時の危機管理事例の研究
5. スポーツ危機管理のための啓発・講習会のあり方の検討と実施
6. 研究成果の公表

スポーツ活動における危機管理は多岐にわたる検証・考察が必要ことから、各領域の専門家(危機管理学、教育学、健康教育学、社会教育学、救急医学、コーチング学等)が集い、スポーツ危機管理研究の対象・領域と方法、スポーツ危機管理研究の関連文献・資料・判例等の収集、スポーツ危機管理の歴史と現状、スポーツ危機管理のための啓発・講習会の実施等々、研究所が担うべき研究課題についての議論を活発に展開している。

さらに机上の研究だけでなく、多くの事例から学ぶことが重要である。発足以来、スポーツ危機管理研究所が推進する取り組みの一つ「学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会」では、事故・事件の当事者やご遺族に登壇いただきお話を聞いている。また、研修会に参加した学生の実態や、学友会運動部の危機管理体制と事故事例の実態・傷病対応のニーズを調査するなど、現場に即した研究活動を徹底している。

いわゆるブラック部活動、教員の長時間労働など社会的に注目を集める問題も多い。こうした人的・組織的な管理の問題に加えて、昨今では自然環境を原因とする熱中症や感染症などへの対応も迫られている。高齢者や障がい者などへの支援や対処も欠かせない。このように、スポーツ危機管理研究所が挑むテーマはあらゆる領域に及ぶと言える。

優れた多くのスペシャリスト、アスリートが集まる日体大の環境を活かし、今後、多くの研究成果が蓄積されていくことが期待される。さらにそれらを発信し、学生たちへ、広く社会へスポーツ危機管理を啓発していくことが使命である。また、教員や指導者となったときに、どのようにすれば児童・生徒のスキルや人間性を伸ばすことができるか? スポーツの大会や活動に携わり緊急を要する場面に遭遇した際に、傍観者でなく、積極的に手を差しのべるためにはどのようなことを学んでおけばよいのか? 学生や関係者一人ひとりがスポーツ危機管理研究所の活動に関心を持ち、機会をつくって学んでいかなければならない。そして、現場で抱える課題や悩みを共有し、本学がリードして先進的な仕組みを構築していく必要がある。

建学の精神を具現化し、スポー

スポーツ危機管理研究所 プロジェクト・活動例

研究プロジェクト 1

学校部活動における重大事故事例とその対応に関する研究

◆研究者：南部 さおり、鈴木 健介

研究プロジェクト 2

教員養成におけるスポーツ危機管理の在り方に関する研究

◆研究者：半田 勝久、上田 幸夫、大塚 幹太、関 芽

研究プロジェクト 3

コーチ養成におけるスポーツ危機管理の在り方に関する研究

◆研究者：関口 遵、野井 真吾、小林 正利、尾川翔大

研究プロジェクト 4

スポーツとリスクに関する文化論的研究

◆研究者：尾川 翔大、野井 真吾

研究所員一覧

役職	名前	所属	職名	専門
所長	野井 真吾	体育学部	教授	教育福祉系
副所長	南部 さおり	スポーツ文化学部	准教授	体育スポーツ科学系
所員	上田 幸夫	スポーツマネジメント学部	教授	教育福祉系
	小林 正利	体育学部	教授	健康医療系
	大塚 幹太	体育学部	准教授	身体教育系
	半田 勝久	体育学部	准教授	教育福祉系
	関 芽	児童スポーツ教育学部	准教授	教育福祉系
	鈴木 健介	保健医療学部	准教授	健康医療系
	関口 遵	体育学部	助教	コーチング系
	尾川 翔大	スポーツ危機管理研究所	助教	

学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会

2019年度		
第1回	10月18日(金)	熱中症による死亡事故をなくすための研修会
第2回	11月15日(金)	コンタクト・スポーツでの重大事故から学ぶ研修会
第3回	12月13日(金)	心臓性突然死をなくすための研修会
2018年度		
第1回	10月12日(金)	ASUKA モデルと、救える命を救うことの大切さを考える研修会
第2回	11月7日(水)	部活動中の重大事故と体罰の問題について考える研修会
第3回	12月13日(木)	「いじめ」「指導死」の問題について「本気で」考える研修会

2019年度は、実際に学校管理下で事件や事故に遭ってしまった当事者、遺族の方々に話をいただきました。また、第1回目と3回目の研修会では、鈴木健介准教授により、事故が目の前で起きた時に適切に対処するための実演講座を実施しました。これらを通して、重大事故が決して他人事ではないこと、防止法や対処法を知る重要性を啓発しています。

部活動・スポーツにおける安全指導・事故対応の手引

この冊子は、学校部活動においてスポーツ指導を行う際に、参考にして頂きたいポイントをまとめたものです。基本的には、学校部活動を舞台としていますが、ほとんどの内容は、部活動以外での未成年者を対象としたスポーツ指導に当てはまるものとなっています。

前半は、スポーツを安全に指導するために知っておいて頂きたい重要な項目として、指導方法のあり方、注意すべき医学的コンディション（スポーツ障害／外傷、心身への影響）、スポーツでのしごき・体罰・ハラスメント・虐待に該当する内容について詳しく述べています。

後半は、事故が起きてしまった時にどのような対応をすべきか、いわば「スポーツにおける事後的な危機管理」について、事例を挙げて詳しく説明しています。

教員を目指す学生、現役の教職員、スポーツ指導に携わる人々、スポーツに従事する児童・生徒とその保護者など、広く知っておいて頂きたい内容を網羅しました。



重大事故・事件から学ぶ研修会

スポーツとリスクをテーマに 先駆的な研究に取り組む

競技者として、指導者として、スポーツとリスクやモラルの問題は、避けて通ることができないものである一方、専門的な研究はまだ端緒に
ついただかりだ。日体大としても重要な使命であり、スポーツ危機管理研究所が中心となって、研究・啓発が進んでいる。

(この記事は野井真吾教授、尾川翔大助教へのヒアリングをもとに編集にて構成しました)

スポーツ危機管理研究所長
体育学部健康学科

野井 真吾 教授

スポーツ危機管理研究所
体育学部体育学科

尾川 翔大 助教



—スポーツ危機管理研究所の発足の経緯や
ねらいはなんでしょう？

本学では、2013年2月に「反体罰・反暴力宣言」を公表しました。しかし、これについては宣言を表明するだけでは不十分です。“どうすれば、体罰や暴力等の問題を真に解決することができるのか”といったことを学術的に追究することが不可欠であると考えています。その一環として、本学では現在当研究所の副所長の南部さおり准教授を中心にして「学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会」を開催してきました。この研修会は多方面から好評を得てきました。このような動向も踏まえつつ、さらに新たな一歩を踏み出そうということで、2018年4月にスポーツ危機管理研究所が設立されました。

—昨今のスポーツにおける危機管理上の問題事例の
傾向や注意すべきことについてご説明ください。

大阪市立桜宮高等学校で顧問教師による体罰を苦にして自死するという痛ましい事件が起きたのは、2012年12月のことでした。しかし、事態はそれだけにどまりませんでした。終わることない競技者や指導者等による体罰やハラスメント、勝利に付随するものへの渴望からくるドーピングの問題、青少年の模範とされるアスリートの犯罪、スポーツ団体のガバナンスの問題などです。これらは、眼前に迫っている東京2020だけでなく、その後をも見据えて向き合い続けなければならぬ問題です。

また、一連のスポーツ危機管理上の問題事象は、近年になつてようやく問題として取り上げられるようになってきました。ただ、表面化した問題は氷山の一角にすぎないと思います。一連の問題は長い年月をかけて堆積されたものであるため、すぐに万事解決できるようなものではありません。長期戦を覚悟して取り組んでいく必要があるでしょう。そのためには、人間を変えていくことと制度を変えていくこと、これをバランスよく進めていく必要があると考えています。

Research Institute for Risk Management in Sport

学校・部活動における重大事故・事件から学ぶ研修会



「現在、特に力を入れている研究例・活動例などを紹介ください。」

本研究所では、現在のところ4つのプロジェクトが動いています。南部さおり副所長を中心とする「学校部活動における重大事故事例とその対応に関する研究」では、本研究所で導入している日本最大級の法律情報データベース「YK Cローライブラリー」を利用し、学校運動部活動の危機管理に関する裁判例を検討しています。今後も最新の情報に基づいて分析結果を発信していきたいと思っています。

半田勝久准教授を中心とする「教員養成におけるスポーツ危機管理の在り方に関する研究」と関口遼助教授を中心とする「コーチ養成におけるスポーツ危機管理の在り方に関する研究」では、それぞれ教員、コーチを養成する段階での危機管理を取り上げています。教員やコーチ養成は本学の大事な社会的使命でもあります。「反体罰・反暴力宣言」だけに止まらず、それを実現するためにはどのような養成を行うべきなのかを専門的に検討しています。

尾川翔大助教を中心とする「スポーツとリスクに関する文化論的研究」では、リスクとスポーツの研究を人文・社会科学の領域の中で、どのように進めていくのかを検討しています。草創期にあるリスクとスポーツの研究のこれからを開拓していくためには、この分野の学問的体系の基礎づくりがどうしても必要で、避けては通れない研究テーマと言えます。

「研究所の取り組みにおいて課題と感じていることはなんですか。」

2018年度に設立された本研究所は、初年度に、「いまだうして、スポーツ危機管理なのか」「本学にスポーツ危機管理研究所がある意味は何なのか」「スポーツ危機管理研究所が担うべき研究課題と方向性は何なのか」等々、

本研究所が担うべき研究課題について旺盛に議論していただきました。このように手探りの段階にあります。

一方では、本研究所の研究は豊かな可能性を秘めていると考えています。リスクとスポーツという観点から考えてみると、関連する研究はケガや事故にとどまりません。すでに英語圏において、リスクを主題とするスポーツ研究は、階級、ジェンダー、子ども、適正などの問題とも結びつけられています。いずれにしても、本研究所の研究課題はこれから拓かれていくものと考えています。

「学部生・院生・教職員に対してメッセージをお願いします。」

現代は、リスクマネジメントの必要性が声高に叫ばれる時代です。リスクは日常生活の中でもよく耳にするようになりまし。人びとは、リスクというワードに囲まれて生活しているのではないのでしょうか。リスクはいたるところに潜在しています。体育・スポーツに関わる時には、こうした時代性を考える必要があると思います。

また、日本体育大学の歴史は、保健体育教諭、養護教諭やスポーツ指導者の養成の歴史とともにあります。本学は創立以来、卒業生の多くを学校現場やスポーツ現場に輩出してきました。日本の体育・スポーツが発展し



野井 真吾

(のい しんご)

スポーツ危機管理研究所および総合スポーツ科学研究センター長。体育学部健康学科教授。日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了/博士(体育科学)。専門領域は、教育生理学、学校保健、発達、体育学。子どものからだ、子どもの体力、子どもの健康などをテーマに研究を続ける。

できたのは、保健体育教員、養護教諭やスポーツ指導者に負うところが大きいと思います。しかし、その反面、本学の卒業生は学校現場やスポーツ現場に携わっていることから、そこで起きた問題に直面することが少なからずあったことを知っておく必要があるとも思います。

「研究所の今後の構想・抱負をお教えください。」

スポーツ危機管理研究所は、草創期の段階にあります。これから取り組むべき課題は山積していますが、まずは、研究所の役割は研究であることから機関誌『スポーツ危機管理研究』の充実を図っていかないと考えています。昨年度に創刊号を発刊しましたが、スポーツ危機管理に関する研究を広く、深く推進したいとの想いから、本研究所の所員でなくとも投稿できる規定になっております。関連する研究成果をお寄せいただければと思います。

また、本研究所の研究内容は体育やスポーツの現場に近いものです。したがって、学校体育、運動部活動、スポーツ団体と連携する必要性も感じております。すでに、そうした方面につきましても動き出しておりますので、本研究所の今後にご期待ください。



尾川 翔大

(おがわ しょうた)

スポーツ危機管理研究所研究員。体育学部体育学科助教。日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士後期課程修了/博士(体育科学)。おもな専門領域はスポーツ史。わが国の近代におけるスポーツ政策等の研究に取り組んでいる。

※令和2(2020)年4月1日現在

【IRE室＝内部質保証機関】

室長	荻 浩三
----	------

【附置機関等】	
図書館長	三好 仁司
学生支援センター長	横山 順一
副センター長	須永 美歌子
学修・キャリア支援部門長	須永 美歌子（兼）
副センター長	大石 健二
生活支援部門長	大石 健二（兼）
教職センター長	後藤 彰
アドミッションセンター長	小林 正利
大学院教学センター長	阿江 通良（兼）
教育企画センター長	荻 浩三（兼）
副センター長	半田 勝久
総合スポーツ科学研究センター長	野井 真吾
体育研究所長	中里 浩一
スポーツオリンピック文化研究所	関根 正美
スポーツ危機管理研究所	野井 真吾（兼）
アスレティックデパートメント長	山本 博
アスレティックデパートメント長補佐	岡本 孝信
ハイパフォーマンスセンター長	大本 洋嗣
コーチングエクセレンスセンター長	伊藤 雅充
スポーツ・トレーニングセンター長	西山 哲成
国際交流センター長	荒木 達雄
健康管理センター長	平沼 憲治（兼）
日本体育大学クリニック院長	平沼 憲治（兼）
寮監長	根本 研
（保健医療学部）	
スポーツキュアセンター長	伊藤 譲

令和2年4月1日実施



■令和2年度 入学試験結果

■日本体育大学 体育学部

区分		志願者数		受験者数		合格者数		倍率
体 育 学 科	A O	415	(164)	408	(164)	173	(83)	2.36
	推 薦	542	(178)	542	(178)	426	(144)	1.27
	一 般	1463	(330)	1384	(307)	338	(87)	4.09
	特 別	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.00
	合 計	2421	(672)	2335	(649)	938	(314)	2.49
健 康 学 科	A O	113	(79)	112	(78)	31	(25)	3.61
	推 薦	83	(49)	83	(49)	42	(31)	1.98
	一 般	753	(253)	720	(241)	237	(98)	3.04
	特 別	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1.00
	合 計	950	(382)	916	(369)	311	(155)	2.95
合 計	A O	528	(243)	520	(242)	204	(108)	2.55
	推 薦	625	(227)	625	(227)	468	(175)	1.34
	一 般	2216	(583)	2104	(548)	575	(185)	3.66
	特 別	2	(1)	2	(1)	2	(1)	1.00
	合 計	3371	(1054)	3251	(1018)	1249	(469)	2.60

※AO入試内訳：トップアスリートAO入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期、学科AO入試、併設校AO入試
※推薦入試内訳：推薦入試Ⅰ期、推薦入試Ⅱ期
※一般入試内訳：一般入試前期・後期、センター試験利用入試前期・後期
※特別入試内訳：帰国生入試、外国人留学生入試

■日本体育大学 スポーツマネジメント学部

区分		志願者数		受験者数		合格者数		倍率
ス ポ ー ツ マネジメント学科	A O	161	(50)	161	(50)	43	(16)	3.74
	推 薦	87	(31)	87	(31)	44	(14)	1.98
	一 般	760	(228)	729	(213)	158	(49)	4.61
	特 別	3	(0)	3	(0)	3	(0)	1.00
	合 計	1011	(309)	980	(294)	248	(79)	3.95
スポーツライフ マネジメント学科	A O	73	(31)	73	(31)	25	(10)	2.92
	推 薦	51	(24)	51	(24)	27	(16)	1.89
	一 般	449	(111)	425	(106)	180	(48)	2.36
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	573	(166)	549	(161)	232	(74)	2.37
合 計	A O	234	(81)	234	(81)	68	(26)	3.44
	推 薦	138	(55)	138	(55)	71	(30)	1.94
	一 般	1209	(339)	1154	(319)	338	(97)	3.41
	特 別	3	(0)	3	(0)	3	(0)	1.00
	合 計	1584	(475)	1529	(455)	480	(153)	3.19

※AO入試内訳：トップアスリートAO入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期、学科AO入試、併設校AO入試
※推薦入試内訳：推薦入試Ⅰ期、推薦入試Ⅱ期
※一般入試内訳：一般入試前期・後期、センター試験利用入試前期・後期
※特別入試内訳：帰国生入試、外国人留学生入試

■日本体育大学 保健医療学部

区分		志願者数		受験者数		合格者数		倍率
整復医療学科	A O	176	(64)	176	(64)	62	(28)	2.84
	推 薦	33	(6)	33	(6)	22	(5)	1.50
	一 般	112	(30)	104	(25)	37	(12)	2.81
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	321	(100)	313	(95)	121	(45)	2.59
救急医療学科	A O	99	(19)	98	(19)	42	(11)	2.33
	推 薦	27	(4)	27	(4)	17	(3)	1.59
	一 般	94	(11)	87	(9)	54	(8)	1.61
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	220	(34)	212	(32)	113	(22)	1.88
合 計	A O	275	(83)	274	(83)	104	(39)	2.63
	推 薦	60	(10)	60	(10)	39	(8)	1.54
	一 般	206	(41)	191	(34)	91	(20)	2.10
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	541	(134)	525	(127)	234	(67)	2.24

※AO入試内訳：学科AO入試Ⅰ期、Ⅱ期、併設校AO入試
※一般入試内訳：一般入試前期・後期、センター試験利用入試前期

■日本体育大学大学院 体育科学研究科 コーチング学専攻

博士前期課程 (募集人員 / Ⅰ期・Ⅱ期併せて12名)			博士後期課程 (募集人員 / Ⅰ期・Ⅱ期併せて3名)		
志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
21 (7)	21 (7)	20 (7)	4 (3)	4 (3)	2 (1)

■日本体育大学大学院 教育学研究科

博士前期課程 (募集人員 / Ⅰ期・Ⅱ期併せて20名)			博士後期課程 (募集人員 / Ⅰ期・Ⅱ期併せて5名)		
志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
6 (2)	6 (2)	6 (2)	5 (4)	5 (4)	5 (4)

()内は女子内数
倍率＝受験者数÷合格者数
一般入試合格者は補欠線上合格者を含む

■日本体育大学 スポーツ文化学部

区分		志願者数		受験者数		合格者数		倍率
武 道 教 育 学 科	A O	72	(18)	72	(18)	47	(13)	1.53
	推 薦	57	(16)	57	(16)	50	(12)	1.14
	一 般	51	(10)	47	(10)	20	(2)	2.35
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	180	(44)	176	(44)	117	(27)	1.50
スポーツ国際学科	A O	60	(16)	59	(15)	29	(9)	2.03
	推 薦	27	(9)	27	(9)	22	(6)	1.23
	一 般	341	(68)	315	(67)	192	(45)	1.64
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	428	(93)	401	(91)	243	(60)	1.65
合 計	A O	132	(34)	131	(33)	76	(22)	1.72
	推 薦	84	(25)	84	(25)	72	(18)	1.17
	一 般	392	(78)	362	(77)	212	(47)	1.71
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	608	(137)	577	(135)	360	(87)	1.60

※AO入試内訳：トップアスリートAO入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期、学科AO入試、併設校AO入試
※推薦入試内訳：推薦入試Ⅰ期、推薦入試Ⅱ期
※一般入試内訳：一般入試前期・後期、センター試験利用入試前期・後期

■日本体育大学 児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科

区分		志願者数		受験者数		合格者数		倍率
児 童 ス ポ ー ツ 教 育 コ ー ス	A O	103	(62)	103	(62)	28	(23)	3.68
	推 薦	96	(48)	96	(48)	66	(38)	1.45
	一 般	530	(161)	486	(147)	177	(66)	2.75
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	729	(271)	685	(257)	271	(127)	2.53
幼 児 教 育 保 育 コ ー ス	A O	39	(35)	39	(35)	14	(14)	2.79
	推 薦	26	(23)	26	(23)	25	(22)	1.04
	一 般	55	(30)	48	(26)	21	(12)	2.29
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	120	(88)	113	(84)	60	(48)	1.88
合 計	A O	142	(97)	142	(97)	42	(37)	3.38
	推 薦	122	(71)	122	(71)	91	(60)	1.34
	一 般	585	(191)	534	(173)	198	(78)	2.70
	特 別	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	合 計	849	(359)	798	(341)	331	(175)	2.41

※AO入試内訳：学科AO入試、併設校AO入試
※一般入試内訳：一般入試前期・後期、センター試験利用入試前期・後期

■日本体育大学 体育学部 編入学
児童スポーツ教育学部 編入学

志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数
11 (5)	10 (4)	10 (4)	2 (1)	1 (1)	1 (1)

※保健医療学部は出願なし

■日本体育大学大学院 体育科学研究科 体育科学専攻

区分		博士前期課程 (募集人員 / Ⅰ期・Ⅱ期併せて25名)		
		志願者数	受験者数	合格者数
体育科学コース	スポーツ文化・社会科学系	5 (0)	5 (0)	5 (0)
	トレーニング科学系	21 (7)	21 (7)	11 (3)
	健康科学・スポーツ医科学系	9 (6)	9 (6)	6 (4)
体育実践学コース	スポーツ教育・健康教育学系	4 (2)	4 (2)	4 (2)
合 計		39 (15)	39 (15)	26 (9)

区分		博士後期課程 (募集人員 / Ⅰ期・Ⅱ期併せて6名)		
		志願者数	受験者数	合格者数
ス ポ ー ツ 文 化 ・ 社 会 科 学 系		3 (1)	3 (1)	2 (0)
ト レ ー ニ ン グ 科 学 系		3 (0)	3 (0)	3 (0)
健康科学・スポーツ医科学系		6 (5)	6 (5)	3 (2)
ス ポ ー ツ 教 育 ・ 健 康 教 育 学 系		6 (2)	6 (2)	5 (2)
合 計		18 (8)	18 (8)	13 (4)

■日本体育大学大学院 保健医療学研究科

区分		修士課程 (募集人員 / Ⅰ期・Ⅱ期併せて8名)		
		志願者数	受験者数	合格者数
高度実践柔道整復師コース		3 (1)	3 (1)	3 (1)
救 急 災 害 医 療 学 コ ー ス		3 (1)	3 (1)	3 (1)
合 計		6 (2)	6 (2)	6 (2)

区分		修士課程 (募集人員：各専攻2名)		
		志願者数	受験者数	合格者数
運 動 器 柔 道 整 復 師 学 専 攻		2 (1)	2 (1)	2 (1)
救 急 災 害 医 療 学 専 攻		2 (0)	2 (0)	2 (0)
合 計		4 (1)	4 (1)	4 (1)

レオ丸と一緒に

日体大を

盛り上げよう!

日体ファミリー公式マスコットキャラクター「レオ丸」

さまざまなイベントや
企画で活躍中です。
これからもみなさんを
熱く応援していきますので
よろしくお願いします。

名前／レオ丸

ニックネーム／レオ LEO

誕生日／4月3日

性格／意志が強く、
どんなことにも耐え、
努力し続ける。

名前の由来／1896年に第1回オリンピックがギリシャ王国（アテネ）で開催された。これに因み、ライオン（獅子）をギリシャ語で LEON（レオン）ということから、オフィシャルマスコットのニックネームをレオ（LEO）とし、また本学正面にあるライオン像を獅子丸（ししまる）と呼ばれていることで、「レオ」と獅子丸の「丸」から、オフィシャルマスコットを『レオ丸』と名付けた。



『いつか大きな舞台上で
活躍できるために!!
そんな戦う人たちを、
ぼくは応援するよ』



【日本体育大学公式応援ソング】SPYAIR「PRIDE OF LIONS」

4人組ロックバンドSPYAIR（スパイエアー）が手掛けた日本体育大学公式応援ソング「PRIDE OF LIONS」。日体大の学生にふさわしくエネルギッシュな曲です。ミュージック・ビデオには本学のトップアスリートやさまざまなスポーツシーンが登場。ぜひチェックしてください。